

4-9					
主題	ヒヤリハットの重要性に関する啓蒙活動とシステムの変更による記録の習慣化				
副題	リスクマネジメントとエンターテインメントの融合				
キーワード 1	ヒヤリハット	キーワード 2	エンターテインメント	研究(実践)期間	24ヶ月

法人名・事業所名	社福) 芳洋会 特別養護老人ホームひのでホーム
発表者(職種)	粕谷亮輔(介護職員)、榎本将大(介護職員)
共同研究(実践)者	鬼原良(介護職員)、小林征弘(介護職員)、木原司(介護職員)

電 話	042-597-2021	FAX	042-597-1973
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	ひのでホームは自然豊かな西多摩郡日の出町にある定員 200 床、ショートステイ定員 15 床の介護老人福祉施設である。法人理念「安心と充実の人生を一緒に」を掲げている。ご入居者の安心と安全、職員の腰痛予防のため、移乗用リフトやスライディングボード等を積極的に導入し「抱え上げない介護」を実践している。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

ひのでホームでは4つのフロアがあり、リスクマネジメント委員会と別に、それぞれリスクマネジメントに関する活動・啓蒙を行う担当を配置している。H27年度の軽微なものを含む事故件数が309件に対し、ヒヤリハットの記録は14件であった。課題として、事故削減の為にヒヤリハットを収集し、有効活用する事により、事故予防へ繋げる文化を作り上げる。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

ヒヤリハットを題材としたエンターテインメント性の高いイベントを実施することで、職員のヒヤリハットに対する意識の向上が図れるのではないかと。また、データ上での入力形式を変更することで、記録を習慣化できるのではないかと。イベントと継続的活動の両方による啓蒙活動を行い、ヒヤリハットの重要性について理解を深め、活用へと繋げていきたい。

《3. 具体的な取り組みの内容》

①エンターテインメントイベント

- ・TOHYO OLYMPIC(投票五輪)

概要：4つのフロア対抗で1週間の内に専用応募用紙にヒヤリハットを記入し、投票する参加型イベント。エンターテインメント性を持たせるため、注目を集めるタイトル名とポスターを作成した。また、表彰の制度を設け、職員の参加・士気向上を促した。

実施期間：H27年度 H27年 12/7から12/13

H28年度 H28年 6/20から6/26 H29年 2/1から2/7

- ・Re:scrap project (リスクラップ)

リスクマネジメント委員会で制定した事故防止のためのルールを遵守徹底するために、職員が作詞・作曲して、ミュージックビデオを作成・啓蒙した。作成日：H28年7/9

②継続的活動

- ・データ上での入力形式の変更 変更期間：H28年 4/1 から

普段使用している記録システムに「ヒヤリハット」の項目を追加し、記録が行えるようにした。

- ・各フロアの情報発信

毎月リスクマネジメント担当でミーティングを行い、事故やヒヤリハットの情報共有する機会を設け、前月の事故やヒヤリハットの振り返りを書面化したものを毎月各フロアで発行した。

補足：取り組みに対してのリスクマネジメント委員会の役割

エンターテインメントイベントに対しては審査・表彰・アドバイス（バックアップ）を実施し、継続的活動に対しては事故防止のためのルールの立案、データ上での入力形式を変更した。

《4. 取り組みの結果》

①エンターテインメントイベント

- ・TOHYO OLYMPIC(投票五輪)

イベント期間内でのヒヤリハットの投票数：H27年度：255件 H28年度：495件

職員全体で投票を行い、独自性が高く事故予防に有効的なヒヤリハットを委員会が審査し表彰、それをリスクマネジメント委員会発行の社内報で周知した。他フロアのヒヤリハットを知り、自身のフロアと照らし合わせる機会となった。また、表彰により職員の士気向上も担った。

- ・Re:scrap project（リスクラップ）

職場職員が作成したと話題になり職員認知率は9割を超えた。また担当が実施したアンケートでは、半数以上の職員が事故防止のためのルールを意識したと回答あり。

②継続的活動

- ・データ上での記録方法の変更

H27年度（変更前）ヒヤリハットの記録の総数が14件だったのに対して、変更後のH28年度では291件になり、約20倍と大幅に記録件数が増加した。

- ・各フロアへの情報発信

ミーティングの結果を書面化し発信することにより、毎月リスクマネジメント担当とフロア職員が一緒に前月の事故やヒヤリハットを振り返る機会が作れた。

《5. 考察、まとめ》

・リスクマネジメントという分野にあえてエンターテインメントという要素を組み合わせることで、リスクに対するイメージを変え、注目を集めることができた。

・エンターテインメントイベントと継続的活動という2つの異なった視点から啓蒙活動を行ったことによりヒヤリハットの数が増加し、記録に残すことを習慣化できた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

ヒューマンエラー介護事故の認識構造と人的要因に関する分析

最終閲覧日：H29年7月1日 <http://ci.nii.ac.jp/naid/120005643458>

《8. 提案と発信》

H28年度のヒヤリハット291件中、対策に繋がったものは84件。今後は対策だけではなく、傾向の分析などを実施し、データを活用してケアに活かしていきたい。啓蒙活動も継続していく。